令和４年度　福井大学地域貢献事業支援金

子どもと大人とシニアのための　民話とわらべ歌の音楽広場

事業責任者：　梅村　憲子（教育学部・准教授）

代表学生　：　窪田 真一（教職大学院・２年）

概　　要	
民話２題の音楽付き朗読、動きを伴ったわらべ歌２曲を組み合わせたコンサート形式のイベントを 2022 年 10 月 9 日（日）本学アカデミーホールにて実施した。 演奏者並びにスタッフ：教員２名、学外者３名、学生８名。当日参加者：66 名（幼児含む）。 民話：①「浦島太郎」福井バージョン（物語の途中の展開と最後が通常と異なっている）。学生による朗読と器楽演奏による効果音付き。 ②千秋次郎（福井市出身、本学工学部卒）作曲「シジミの恩返し」。学生による朗読とプロ演奏家の演奏による音楽劇形式。 わらべ歌：千秋次郎氏作曲①「かごめかごめ」②「お経はかりかり」。学生の合唱とリードで子どもたちも手を動かし一緒に遊んだ。会場の大人も手拍子などで参加した。	
関連キーワード	わらべ歌、福井の民話、福井弁、音楽劇、朗読劇

事業の背景および目的

福井にはすぐれた民話やわらべ歌が多く存在するが、それらを伝えるためにはその価値を知り継承していく意識と取り組みが必要である。申請者が昨年度実施した福井市内の子ども園などに対するアンケートでは、わらべ歌はその教育効果が認められ、小学校の音楽の教科書にも掲載が増えているにもかかわらず、若い保育者がわらべ歌を知らないなどの理由からわらべ歌を扱わない園が複数あった。民話についてはそれらをまとめた出版物は過去にあるものの、県下の小中学校でも取り扱われることは著しく少なく、福井に多くの民話が伝わっていることを知っている学生は申請者の聞き取りの範囲内では皆無であった。さらに独特の含蓄のある言葉遣いや優しい揺れを伴う古い福井弁を話せるシニアも減りつつあり、古き良き福井弁は消えゆく運命にある。しかしそれらは決して失ってはいけない福井の誇るべき伝統文化である。

本企画はそれら福井の美しい伝統文化の良さを子ども達、親世代、シニア世代に知ってもらい、伝承を目指すものである。わらべ歌の合唱、民話の朗読と音楽演奏によって、音楽専攻学生の学びの発信も行う。

事業の内容および成果

○2022 年 10 月 9 日（日）13:30 から 14:30 まで本学アカデミーホールにて、音楽を伴った民話の朗読 2 題、子どもと一緒にあそぶわらべ歌 2 曲によるコンサート形式のイベントを実施した。会場の前面にござをひき、小さな子ども達は靴を脱いで思い思いにござに座って鑑賞した。母親の膝に座って熱心に聴き入る子など、未就学児も窮屈にならずに鑑賞でき、後方の椅子席の大人の方たちは子ども達と一定の距離を取ることができ、子どもと大人とシニアのための、と銘打ったイベントのレイアウトとしてよい工夫であった。

○宣伝について：イベントに先立ちチラシを作成し、福井市内の子ども園や小学校の音楽担当教員等に、音楽部会などの ML を通して周知。他に福井市内公民館、福井県内各市町の老人クラブ事務局、福井市内音楽教室などにチラシを配布。期日までに大人、子ども合わせて 66 名の申し込みがあった。申込は専用アドレスへのメールのみとした。コロナ禍による人数制限を設けざるを得なかったが、電話などによる問い合わせも多くあり、チラシによる宣伝効果があった。（添付資料①事前配布チラシ）

○学生の学びについて：学生は朗読、合唱、器楽演奏などに加えて、会場設営、会場での子どもたちの誘導などイベントの裏方としての役目も担った。子どもたちに楽しんでもらえる演奏を目指して熱心に事前練習を重ねたことにより、合唱や器楽演奏の技術的な向上だけでなく、子どもの姿を想像しながら取り組む姿勢は、教育学部の学生として必要かつ重要なスキルを伸ばすことに繋がった。プロ演奏家との共演も通常の授業ではできない経験となった。

○各プログラムについて

・「浦島太郎」：浦島太郎伝説が日本各地にあり、福井にも福井バージョンがあることを知っていただけたことが、まず意義のある事であった。窪田（作曲専攻 M2）による現代音楽的な知見を活かした音楽が付された。使用楽器はオーシャンドラム、スレイベル、クラベス、シンギングボール、サウンドホース、スネア、グロッケン、スプリングドラム、マラカス、ハピドラム、ピアノ、クラリネット、フルートなど。ピアノは弦にゴムやねじなどを細工するプリペアドピアノと呼ばれる技法を用いた。会場の子どもたちに珍しい楽器は大人気となり、休憩中に学生から使用方法を教えてもらい、大喜びで楽器を触っている子ども達の姿が多数見られた。（添付資料②－１）。朗読：窪田(M2)。楽器演奏：音楽専攻２年生６名。

・「わらべ歌と手遊び」：音楽の専門授業である合唱Ⅱで練習している楽曲に学生が子どもたちと一緒にできる動きを考え演奏した。子どもたちは大学生と手をつないだり、一緒に跳ねたりして、大いに盛り上がっていた。大人もその場で手を動かしたり足踏みをしたりするなど、合唱の音楽を楽しんで下さっていた。2 曲のうち「お経はカリカリ」は福井に伝わるわらべ歌であるが、それを知っている参加者は皆無であったため、本事業は福井のわらべ歌を紹介するという意義のあるものとなった。「かごめかごめ」はポピュラーなわらべ歌であるが、音楽専攻学生の合唱とプロピアニストのピアノによって、合唱曲としても聴きごたえのあるもので、楽しく遊びながら、学生たちが学んでいる本格的な合唱音楽を聴いていただくことができた。（添付資料②－２）合唱：音楽専攻 2 年生 6 名。ピアノ：本学卒業生。司会及び合唱指導：梅村
・「シジミの恩返し」：福井に伝わる民話でありながら、この話を知っていた者は学生、参加者も含めて皆無であった。ほのぼのとした心温まる福井の民話を紹介できたことは、大いに意義のある取り組みであった。
朗読は千秋氏による古い福井弁を使用した。担当した学生は祖父母にイントネーションを確かめたり、三国在住の年配者に発音指導を受けるなど、福井の言葉に対する学びを深めた。会場の年配の参加者も知らない言葉も用いられており、福井弁の味わい深さを再認識していただけた。千秋氏による箏 2 面とピアノの音楽は物語に則してわかりやすく書かれており、音楽が物語の場面を際立たせ印象付ける役割を果たした。単なる朗読会ではなく、朗読と音楽とが融合した世界観を楽しんでいただけた。（添付資料②－３）朗読：音楽専攻 4 回生。合唱：音楽専攻 2 年生 6 名。箏：本学非常勤講師他 1 名。ピアノ：本学卒業生。合唱指導：梅村

令和4年度地域貢献支援金

事業名称：子どもと大人とシニアのための　民話とわらべ歌による音楽広場

事業責任者：梅村憲子（教育学部　准教授）　　代表学生：窪田真一（教職大学院　2年）

福井市内幼稚園、子ども園のわらべ歌についての実態調査（'21梅村）

若い保育者がわらべ歌を知らない
わらべ歌を知る機会がない

福井の文化に誇りを持とう！福井弁に誇りを持とう！

作曲家
千秋次郎
福井市出身
工学部卒

古き良き福井弁への知識と福井愛
福井伝承のわらべ歌による合唱曲多数
シニア世代こそ福井の文化の継承者たるべき

福井の文化と福井弁を大切にしよう！
福井の文化と福井弁を守ろう伝えて行こう！

声と箏による和洋の音楽の融合

声と箏による音楽科出張授業において
（附属前期・後期課程、高志中学校）
箏伴奏による日本歌曲（講師演奏）は
子どもたちの興味を引いた

現代音楽の知見。実験的な音作り、珍しい楽器の紹介

窪田の研究テーマ

大人も子供もシニアも福井弁の民話を音楽と共に聞こう。福井のわらべ歌で一緒に遊ぼう

至民中での実践

('21)平家物語のBGM

音楽には和洋の垣根も新旧の垣根もない

子どもたちに日本語の歌の良さを伝えたい

音楽専攻学生の合唱の授業

授業の枠を超えて子ども達と
一緒に合唱を楽しみたい（2回生）

音楽が物語を盛り上げる
音楽で感動が増す